

出題分析			
試験時間	150 分	配点 概評参照	大問数 4 題（現代文 2、古文 1、漢文 1）
分量（昨年比較）	〔減少 同程度 増加 〕	難易度変化（昨年比較）〔易化 同程度 難化〕	
<p>【概評】</p> <p>※配点は、文学部 500 点、法学部・教育学部 650 点、経済学部 600 点。</p> <p>〈現代文〉</p> <p>本文量は大問一で同程度、大問二では大幅に増加し、現代文全体では昨年と比べて増加した。記述量は大問一で変化なし、大問二では 20 字増加で、現代文全体では増加した。設問数は 5 問ずつで昨年から変化なし。大問一、大問二とも書くべき要素が比較的分かりやすい設問が多かったが、一部解答する内容を迷うものもあった。</p> <p>〈古文〉</p> <p>本文量は昨年よりやや増加、設問数や記述量は同程度。昨年までは平易な文章からの出題が続いていたが、今年では 2009 年以降となる『源氏物語』からの出題であり、本格的な解釈力が求められ大幅に難化した。また、和歌が 2019 年以降 6 年ぶりに出題された。</p> <p>〈漢文〉</p> <p>本文量は昨年より 40 字程度減。設問数と記述量は変化なし。清代に書かれた逸話からの出題で、近年よく出題されていた硬質な論説文に比べれば内容をつかみやすい。しかし一部の設問では制限字数が厳しく、例年通り高度な答案作成力が求められた。</p>			

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
一	現代文（評論） 松井哲也「AI の手を掴むくらいなら溺れて死ぬ」	人工知能と人間の関係性について述べた文章。入試でも頻出の人工知能について、開発の歴史などを交え、具体的に書かれている。設問はおおむね解きやすいが、問(二)は出題の意図を捉えにくく、書くべきポイントを探すのが難しかっただろう。漢字書き取り 1 問（解答数 5）、理由説明 2 問、内容説明 2 問の構成。	標準
二	現代文（小説） 木内昇『剛心』	人間関係に苦勞しつつも、仕事に熱心に取り組む建築家である主人公と、それを見守る妻について描かれた場面。それぞれの登場人物の心情を掴む必要がある。問(五)は解答の幅が広く、書くべき内容に一部迷っただろう。言葉の意味の説明 1 問（解答数 3）、内容説明 3 問、理由説明 1 問の構成。	標準

設問別講評			
三	古文（物語） 紫式部『源氏物語』 椎本巻	兵部卿宮からの度重なる弔問に対し、大君と中の君が対応に苦慮する文章。いずれの設問においても、該当箇所の際密な解釈力と端的な表現力が求められる。問(三)は「さきざき御覽ぜしにはあらぬ手」から大君の歌だと判断する。口語訳2問（解答数3）、内容説明2問、理由説明1問の構成。	難
四	漢文（逸話） 銭泳『履園叢話』	仙人から文字占いの書を授かり、占いをよく的中させた朱某と、その子どもの話。問(五)は漢字を分解して占っていることに気づけたかどうか。語句の意味1問（解答数2）、書き下し1問（解答数2）、口語訳1問、内容説明1問、理由説明1問の構成。	標準

合格のための学習法

〈現代文〉

東北大学の現代文は記述問題の制限字数が厳しいので、本文の正確な読解に基づいて必要なポイントを過不足なくまとめる表現力が試されている。過去問研究にあたっては、解答を頭の中でイメージするだけでなく、実際に答案を書く練習が不可欠である。

〈古文〉

まずは文法・語彙の基礎を確実に定着させた上で、本文の内容を正確に捉えられるようにしておくこと。その上で、過去問や模試などを活用して、制限時間と制限字数を意識した解答力を養成しておくことが必要だ。また今年度のように難度の高い文章が出題されることもあるので、そのような文章にも対応できる解釈力を磨いておくことよい。和歌対策も必須。

〈漢文〉

本文・設問ともに難度に幅があり、まれに極めて高難度の問題が出題される。重要語句や覚えるべき句法を習得しておくことは当然として、過去問等で演習量を確保し、抽象度の高い漢文を読み解く読解力と、多くの要点を短い字数でまとめる記述力を養っておきたい。